

## 第7版はしがき

本書で引用している『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』が5年ぶりに第7版(2017年11月)に改訂された。今回の本書の改訂は、それに合わせて必要な修正をし、同時に囲み記事判例の差し替えも行った。また、各章の冒頭にある新聞記事とIntroductionをすべて刷新している。もちろん、本書第6版(2017年4月)刊行から今日に至るまでの法令の制定改廃を反映させ、重要な最新判例にも言及している。

本書の基本的考え方は、初版以来変わっていない。本書では、行政法をはじめて学ぶ学生または公務員試験、各種資格試験、法科大学院進学を目指している人が、行政法の全体像を概観できるようになるべく分かりやすく解説するよう努めている。また、4名の共同執筆という本書の性格上、新たな行政法の体系を提示するというよりも、学説判例の現況をなるべく客観的に描写するようにしている。

本書では、初学者が学習しやすいようにいくつか工夫を凝らしているが、それは以下の4つにまとめることができる。

第1に、各章のはじめにイントロダクションを設け、比較的最近のトピックを素材にして各章の内容がおおよそ把握できるようにしている。

第2に、読者が一目でそのページの内容が掴めるように窓見出しを設け、また、学習の手助けになるように多くの図表を挿入している。

第3に、本文で詳しく触れることができない重要な事項については、コラムを設けそこで説明することになっている。

第4に、行政法の授業では、教科書のほかに副読本として判例集を使用するのが一般的であるが、重要と思われる判例については、その概要を本書の中で解説することになっている。また、判例は、基本的に公式の判例集ではなく、大学の講義や演習で最もよく使われ、一般の書店でも入手可能な、字賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』(別冊ジュリスト)、芝池義一編

『判例行政法入門』（有斐閣）および毎年度刊行される『重要判例解説』（ジュリスト臨時増刊）から引用することになっている。

このような本書のコンセプトや特色が、多くの読者に受け入れられ、行政法に少しでも興味を抱いていただければ幸甚である。

最後に、第7版の刊行にあたって、法律文化社編集部の方舟木和久氏に、また、判例索引や事項索引について、同志社大学大学院法学研究科修士課程の田中美帆さんと福原直季さんに、それぞれ大変お世話になった。この場をかりて謝意を表したい。

2019年2月

執筆者を代表して

佐藤英世